

## 「第68回日本放送協会放送文化賞」の贈呈

「第68回（平成28年度）日本放送協会放送文化賞」は、次の方々に贈呈することに決定しました。 <五十音順>

あ    べ    かつ    ゆき  
**阿 部 勝 征 氏** / 東京大学名誉教授

あん    どう    まこと  
**安 藤 真 氏** / 東京工業大学 理事・副学長

か    こ    たかし  
**加 古 隆 氏** / 作曲家

**タ    モ    リ 氏** / タレント

み    た    よし    こ  
**三 田 佳 子 氏** / 俳優

や    じま    みのる  
**矢 島 稔 氏** / 群馬県立ぐんま昆虫の森 名誉園長

※阿部勝征氏は故人

この賞は、昭和24年度に放送開始25周年事業として創設したもので、放送事業の発展、放送文化の向上に功績のあった方々に贈呈しており、これまでの受賞者は今回の6人をあわせて443人となります。

受賞者の選考は、NHK副会長が委員長を務め、池端俊策氏（脚本家）、今井秀樹氏（東京大学名誉教授）、大石芳野氏（フォトジャーナリスト）、二木謙一氏（國學院大學名誉教授）、吉岡幸雄氏（染織史家）と、NHKの理事5人の計11人を委員とする選考委員会で行われ、決定しました。

贈呈式は、3月17日（金）の「第92回放送記念日記念式典」で実施する予定です。また、受賞者には佐藤忠良氏製作のブロンズ像「ふたば」と副賞を贈呈します。

## 第68回日本放送協会放送文化賞・受賞者資料

あ べ かつ べき  
阿 部 勝 征 氏 (72) / 東京大学名誉教授



地震研究の専門家として阪神・淡路大震災、東日本大震災をはじめとする災害報道に30年にわたって貢献。昼夜を問わず緊急ニュースへの取材対応や「NHKスペシャル」などへの番組出演を通して、被害の規模や特性、防災上の注意点を的確に伝えました。また、地震の発生を可能な限り速く知らせる「緊急地震速報」の実用化を推進し、日本の防災・減災の取り組みを主導。リスクコミュニケーションにおける公共放送の意義を大きく向上させました。

あん どう まこと  
安 藤 真 氏 (65) / 東京工業大学 理事・副学長



電磁界理論の第一人者として、無線伝送の基礎となるアンテナ技術の研究を推進。平面型導波管スロットアンテナの開発によって小型で高性能な衛星放送受信アンテナの実用化を進め、衛星放送の発展に貢献しました。また、NHK放送技術審議会委員やNHK放送技術研究所の研究アドバイザーを務め、8K放送の実用化に不可欠な大容量データを安定して伝送する送受信方式の構築を先導するなど、次世代に向けた放送文化の進化に寄与しています。

か こ たかし  
加 古 隆 氏 (70) / 作曲家



確かな理論と構成力を備えた作曲家として、また、卓越した技術をもつフリージャズピアニストとして国際的に活躍。1995年、NHKスペシャル「映像の世紀」のサウンドトラックを手掛け、叙情的かつ力強い旋律によって時代を超えた真理に迫り、数多くの視聴者に感動を与えました。「ドキュメントにつぼん」、「こんげんどキュメント」など、長年にわたって公共放送が取り組むドキュメンタリー番組でも、楽曲によって人々の生きる姿を描き出し、放送文化の発展に寄与してきました。

タ モ リ 氏 (71) / タレント



1975年のデビュー以来、音楽、芸能、歴史などの奥深い知識と独自の視点、語り口で既存のジャンルに収まらない活躍を続け、「ブラタモリ」では地理・地学とエンターテインメントを融合した新たな教養番組のスタイルを確立。昭和から平成へと続くテレビの世界を一貫してリードしてきました。1983年には「NHK紅白歌合戦」の司会を務め、「ウオッチング」、「NHKスペシャル 脅威の小宇宙・人体」、「巨大災害 MEGA DISASTER」など生き物・科学分野の番組にも数多く出演するなど、幅広く公共放送の発展を支えています。

み た よし こ 三 田 佳 子 氏 (75) / 俳優



1965年の「太閤記」をはじめ、「いのち」、「花の乱」など大河ドラマを含む数多くの作品に出演。銀幕のスターとして培った気品と存在感ある演技で人々を魅了し、本格化するテレビドラマの時代を支えてきました。「NHK紅白歌合戦」の司会を1989年から2年続けて務めるなど多彩な才能で幅広く放送に貢献し、2014年には旭日小綬章を受章。今年度も「忠臣蔵の恋」に出演するなど、半世紀以上にわたり、放送文化の発展に寄与しています。

や じま みのる 矢 島 稔 氏 (86) / 群馬県立ぐんま昆虫の森 名誉園長



昭和30年代より、昆虫学者として数多くのラジオ、テレビ番組に出演。33年間にわたって親しまれているラジオ番組「夏休み子ども科学電話相談」には放送開始時から回答者として携わり、豊かな知見を子どもの目線に立ったわかりやすい言葉で伝えてきました。東京動物園協会理事長などを歴任し、後進の育成に尽力すると共に、「アインシュタインの眼」、「爆笑問題のニッポンの教養」など新しい表現手法を試みる番組にも出演。幅広く放送文化の発展に寄与しています。